

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム あじさい室津		
所在地	下関市豊浦町大字室津下1443番地		
電話番号	083-774-2368	事業所番号	3577800422
法人名	特定非営利活動法人 宅老所あじさい		

訪問調査日	平成 20 年 6 月 10 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 17 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人 非常勤 4 人 (常勤換算 7.4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 35,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	10,000 円		
	内訳	光熱費 8,000円 日常生活費 2,000円		

(4) 利用者の概要 (5月12日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	0	要介護 4	3
	要介護 2	1	要介護 5	1
	要介護 3	4	要支援 2	0
年齢	平均 83.4 歳	最低 72 歳	最高 91 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 下関市立済生会豊浦病院、藤本医院、重本内科 歯科 すまいる歯科
-------------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

共用空間が広く、利用者の状況が一望できる建物で、壁には職員と利用者の協同作品の貼り絵が掛けられ、共に生活している楽しさと明るさが感じられます。利用者の笑顔が溢れ、職員間のコミュニケーションも良く取れており、熱意ある取り組みが見られます。

(特徴的な取組等)

就寝前に足浴をし、利用者とのコミュニケーションや導眠効果、水虫予防に役立っています。食事の大切さを全員が理解し、3食ともホームで作り、利用者の好みも聞きながら、1連の作業を一緒に行い楽しんで食事をしています。日中の職員は3~5人で利用者の希望に沿った柔軟な対応ができています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

地域向けホーム便りを公民館や医療機関の窓口においています。運営推進会議のメンバーは家族を1名増やし今後も拡大を考えています。応急手当の訓練はミーティング時にイメージトレーニングを実施しています。相談苦情の第三者委員の選任をしています。

(今回の自己評価の取組状況)

地域密着型サービスについて説明し、全職員に配布、記入してもらい管理者と計画担当で総合評価して記入しました。1年の振り返りや今後の方向性が見えて、質の向上に活かせる機会となっています。

(運営推進会議の取組状況)

定期に実施し、メンバーは市職員、自治会長、家族代表2名、地域包括支援センター職員で、ホームの現状報告やホーム便りの配布、地域の関係作りなど意見交換をしています。

(家族との連携状況)

毎月のホーム便りと金銭管理にあわせ個別のコメントを記入し、暮らしぶりや健康状態を知らせています。また面会時に報告や意見を聞き、家族会の総会で家族との交流を図ったり、来訪困難な家族には電話連絡をしています。

(地域との連携状況)

散歩時にであう人との会話や野菜やお花などの差し入れがあります。地域のどんど焼きや音楽会への参加や小学生の訪問による交流、敬老会には保育園児やたくさんの地域の人々の参加があり、地域との関係作りが進んでいます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所の独自の理念として、あじさいの頭文字で「安心して生き生きと、自由に健康で、生きがいの持てる暮らし」を作っているが、地域密着型サービスとしての具体的な検討はまだである。	・地域密着型サービスとしての理念の検討
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に確認できる位置に掲示しており、ミーティングや会議で確認し、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のどんど焼きや公民館での音楽会に参加、また敬老会で認知症の講話や相談を受けたり、地域の人を夏祭りへ招待している。学童の訪問、散歩時の会話や野菜、お花の差し入れなど交流は広がっている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を説明し、全員で取り組み、管理者と計画担当者が総合評価して記入した。現状が見え一年間の振り返りが出来て、改善点を共有している。前回の外部評価の結果は具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期に開催し、メンバーは自治会長、市職員、包括支援センター職員、家族代表で利用者や行事等の報告やホーム便りの配布、意見交換を行っているが、評価については配布にとどまっている。	・メンバーの拡大の検討 ・評価の活用
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営相談や入居者に関する相談を市役所、包括支援センターと行き来して、共にサービスの向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便りと金銭管理状況にコメントを添えて送付、面会時に生活ぶりや健康状態の報告をし、来訪困難な場合は電話で連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	年2回の家族会時に意見、相談、苦情を聴いて運営に反映している。苦情解決体制は窓口、解決責任者、第三者委員を明示し、家族会等で周知を図っている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の希望休を聞き、行事のある時は話し合いの下で、人数の調整をしている。職員数は11名で、日中は3～5名が個別の要望に柔軟に対応し、代替職員は非常勤職員を当てている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職場環境を整え(親睦会、悩み相談、希望休)離職者を最小限に抑え、異動時は職員が3日の重複勤務と夜勤3回を二人で行って利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初心者、中堅、リーダー等段階的に研修に参加、内部の勉強会は交代で参加を勧めている。新人はOJT研修を取り入れ、仕事をす中で介護技術や接遇の方法をトレーニングしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会(年4回3人づつ参加)、下関市北浦ブロック(年2回)で研修会や相互訪問、交流会の機会を持っている。また毎月のサービス担当者会議にも参加し、他のグループホームとの交流で、サービスの向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入所相談時に、日中の体験を通じて利用者が雰囲気馴染めるように配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>調理、後片付け、洗濯物たたみを職員と共にしながら喜びや楽しみなど共有している様子が見られた。また利用者の今まで築いてきた知恵や技を日常的に活かしている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者一人ひとりとのコミュニケーションに努め、家族の情報や利用者の言動から、思いや意向を把握し、ミーティングで共有して対応を検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の希望や意見、本人の意向を聞き、十分に話し合いながらそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>毎月1~2回全員のカンファレンスを実施、目標の遂行状況や評価を行っている。基本的には6ヶ月の見直しであるが、変化のある場合随時見直しをしている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望により、柔軟に対応できる体制にある。家族の宿泊時の食事や、利用者の受診の付き添いや送迎等を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用時家族と話し合い、希望に沿って柔軟に対応している。かかりつけ医の付き添いや送迎、情報の交換も取り決めて、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居後早い段階に家族の意向を聞き、ターミナルケア(今まで6人)を、受け入れている。方針を作成し同意書も貰っている。医師、看護師、職員で頻りに協議しながら方針を全員で共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシー保護については充分認識しており利用者の誇りを大切に、言葉かけに注意しながら対応している。記録物は所定の保管庫で管理している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の希望や体調に合わせてテレビを見たり散歩に付き添うなど、一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の大切さを理解しており、3食ともホームで作っている。利用者の好みを聞き調理、配膳、後片付けを楽しみながら一緒にしており、食事中も会話が弾み「美味しい、美味しい」の声が聴かれた。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は10時～15時で利用者の希望に沿ってゆったりと入っている。職員は利用者とのコミュニケーションの時間とし楽しみにしている。その日の体調にあわせ清拭、シャワー、足浴等も支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	習慣や趣味、力量を把握し調理や後片付け、掃除、草取りなどの役割や、貼り絵、しりとり、かけ算、陶芸などの趣味や楽しみ事の場面作りを支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や周辺の散策、季節毎のお花見、初詣、みかん狩りなどその日の希望に沿って戸外に出かけるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	ミーティングや職員会議、カンファレンス等で職員の言動を振り返り拘束をしないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、利用者の外出傾向を把握し、カンファレンス時に共有しながら、メインの職員が見守りを行っている。日中は鍵は掛けず自由に出入りできる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、利用者個々の状態を把握し事故防止に取り組んでいる。ヒヤリはっとや事故報告書は整備し、全員で検討して事故防止に活かしている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、勉強会でイメージトレーニングを実施しており、一人ひとりのリスクの把握、連絡網や連携体制は出来ているが、実践的な訓練はまだである。	・応急手当での定期的訓練
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の火災避難訓練を行っているが、夜間想定訓練や地域の協力は不十分である。	・夜間想定訓練の実施の検討 ・地域の協力の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は服薬管理表で、全員が把握しており、服薬は手渡しして確認している。2週間毎の協力医による訪問診療時、職員の研修もある。必要時医師に情報のフィードバックをしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後口腔ケアを実施しており、困難な利用者には、職員が清掃介助と保管をしている。歯科医師の定期的な訪問診療があり職員の研修も行っている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量や水分量は記録し、食事は利用者の状態に応じて刻み食や軟食にしている。カロリーやバランスについては、デイサービスの栄養士により大まかに把握している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、ミーティングで確認しながら、手洗い、うがい、消毒を徹底している。インフルエンザについては毎年全員接種している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	台所より居間、廊下、玄関、各居室が見渡せ、共用空間にはソファがあり、テレビや本、雑誌を見ながら自由に過ごせるようになっている。壁には季節の貼り絵、廊下の両側にイベントの写真やホーム便りが貼られ、処々に季節の花を活けて生活感や季節感を感じさせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や好みのものを自由に持ち込み、利用者と家族の意向が配慮された居室となっている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームあじさい室津
所在地	山口県下関市豊浦町大字室津下1443番地
電話番号	(083) 774-2368
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (5月12日現在)

ユニットの名称	グループホームあじさい 室津					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの利用者数	9 名		男性	1 名	女性	8 名
	要介護 1			要介護 4	3	
	要介護 2	1		要介護 5	1	
	要介護 3	4		要支援 2		
年齢構成	平均	83.4 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	全職員の意見を聴き(自己評価表を記入してもらう)施行
評価確定日	平成 20 年 5 月 10 日

【サービスの特徴】

明るく家庭的な雰囲気を重視し、利用者様が安心感を持って、「日々笑顔絶や
すことなく」「個性豊かに」生活できるよう努めています。又、個々の心身の状態に
合わせた介護内容を日々検討し、快適に生活できるように援助していきます。

- ・体調の悪い方・本人の強い拒否(希望)以外は基本的に毎日入浴をしている。
- ・野菜を植え、育つ楽しみを分かち合い支援につなげている。
- ・一年を通して足浴を行い、清潔の保持・水虫等感染症対策につなげている。又、
お一人お一人とのコミュニケーションの場でもある。
- ・利用者同志又は、職員との馴染みの関係を大切にしている。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の中で安心して生き生きと自由に、健康に生活していけるサービスで、生きがいの持てる暮らしを提供することをモットーに独自の理念を掲げている。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に確認できる位置に掲示している。又、ミーティング等で読み上げ、実践に向け日々取り組んでいる。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	事務所内のよく見えるところに明示している。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	ミーティング、職員会議等で確認し合い、また勉強会を開く等、質の向上に熱意を持って、取り組んでいる。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	毎月1回のホーム便り、季節の行事を通して又、家族・地域の人と対話時等に、事業所の思いを話している。	
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	散歩時等、気軽に声を掛けていただいている。又、玄関先に、花などを飾り、気軽に立ち寄りいただけるように開放している。	
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事案内をいただき、参加している。又、事業所主催の敬老会や夏祭りでは、案内を出し、地元の方と交流できる場を設けている。	
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	去年の敬老会では、認知症についての講演会や認知症への相談窓口を設け、地域の方の話を聞く機会を設けた。	○ 今後更に、苑にも気軽に立ち寄られるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価をいつでも閲覧できるようにしている。又、折にふれ実施する意義を話している。前回の評価の時にアドバイスされた献立表におやつやデザート・の果物を記入することを実施している。又、第三者委員を設置した。	
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	利用者の現況、サービスの実際等報告し、写真でも日常の様子が分かるようにパワーポイントを使用し、紹介している。	
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営相談、入居者に関する相談等、適宜行い、質の向上に取り組んでいる。	
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修会を行い、学ぶ機会を設けている。 現在活用を必要とする人はいない。	○ 職員全員が理解できるよう勉強会を開いたり、研修に参加し、活用できるように取り組みたい。
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング、職員会議、勉強会を通して虐待防止に取り組み、職員間でも互いに声かけし合い、注意を払っている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に十分な説明を行っている。又、理解が不十分なときには、何度でも説明を行い、納得を図っている。	
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見、不満、苦情を言いやすい雰囲気作りに留意し、意見が出れば反映している。	
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回のホーム便り又、家族の来所時に近況を必ず報告している。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	希望があれば常時応じられる。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に意見箱を設置している。又、苦情窓口第三者委員や外部機関を明示し、相談や苦情を常時受け付ける体制にしている。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、職員会議等で自由に意見を言ってもらっている。又、個別に話を聞く機会を設けている。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務表を作成するときは、全職員に休みの希望を聞いている。職員の理解の元、行事等がある時は、出勤人数を増やして対応したり、職員の急な休みの時には非常勤職員が勤務を代わるなど、勤務の調整を行っている。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は必要不可欠時のみとしているが、異動があるときは、ベテランの職員が新人職員をサポートし、利用者との信頼関係を築けるように支援している。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内・外の勉強会や研修に参加できるように薦めている。特に新人職員には仕事をする中で、介護技術や接遇の方法を指導している。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	幅広い年齢の職員(20代～60代)又、男性職員も配置されており、利用者の多様な暮らしに対応している。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会への参加、相互訪問等、交流する機会を設けている。	○	全職員が交流の機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会へと発展できるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年に2回親睦会を設けたり、個々に悩みの聞き取りなどを実施している。		
26	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、直接的な声かけ、助言等、向上心を持って働けるよう努めている。		
27	○職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	管理者や職員の業務に対し、適切な評価をするよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前にアセスメントを適切に行い、不安なことなどを解消できるように努めている。また、本人が求めていることを受け止める努力をしている。		
29	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前にアセスメントを適切に行い、思いを良く聴く機会を設けている。また不安なことや、求めることを受け止める努力をしている。		
30	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の情報提供、又、必要としている支援を見極める対応に努めている。		
31 (13)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員同士の情報交換(入所前の情報、家族からの要望や情報を元に)をしながら、利用者が徐々に馴染めるように努力している。希望があれば、利用者と一緒に体操などの余暇活動を行うなどの体験可能。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来ることは見守り、又一緒に行い共に過ごすことによって、喜びや楽しみを共有している。職員が畑作りを教わるなど学ぶことも多く支え合う関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時等、家族の意見を聞く機会を持ち、一緒に本人を支えていく関係作りに努めている。	
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族との関係を職員が共通認識できるようミーティングや職員会議等で情報の提供、話し合いをし、支援している。	
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	どなたでも面会に来やすい雰囲気作りを心掛けている。又、希望時には(近場の場合)、馴染みの方に会いに行ったり、馴染みの場所に行くなどの支援を行える体制をとっている。	
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士がうまく関わり合えるよう、食事時、入浴時、レク時、作業時等、お互いの相性、関係を把握した上で、良い関係が保て、支え合えるよう努めている。	
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了しても、相談などに応じられる体制をとっており、希望があれば、各種行事のお知らせを送るなど、交流の場を設けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりとのコミュニケーションに努め、ミーティングやケアカンファレンス等で情報を交換し、本人本位に検討している。	
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前のアセスメントや家族からの情報を元に職員全員が経過の把握と共有に努めている。	
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の言動や家族の情報を元に、又、日々の心身状態から、できる事を総合的に把握するよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<input type="checkbox"/> チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	<input type="checkbox"/> 家族からの情報や、本人とのコミュニケーションの中で知り得た情報を元に、職員同士最大限の介護計画ができるよう常に話し合っている。	
42 (17)	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	<input type="checkbox"/> 半年毎の見直しを実行しているが、状況の変化に応じ、必要な関係者と話し合い、計画の見直し、変更を行っている。	
43	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	<input type="checkbox"/> 介護記録や健康の記録を個別に残し、職員全員が情報を共有し日々の介護や介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	<input type="checkbox"/> 相談・希望があれば柔軟な対応ができるように支援している。(家族が泊られる時には食事を用意することも可能。自宅で用事がある時に送り迎えの援助可能(近場のみ))	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	<input type="checkbox"/> 本人の意向や必要性に応じて、各機関に協力を依頼する。	
46	<input type="checkbox"/> 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	<input type="checkbox"/> 常時受け入れられるよう開放している。家族・ボランティア等の見学は多々行っている。	
47	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	<input type="checkbox"/> グループホーム以外のサービスを希望される時、又、必要な時は、必要な職種の方と連携して、柔軟な対応が行えるよう支援している。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の意向や必要性に応じ、地域包括支援センターと連携を図り、協働している。		
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診や突発的な受診もでき、適切な医療を受けられるように支援している。希望のかかりつけ医への通院支援も行っている。		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医師との連携を図りながら、認知症の治療を受けられるよう支援している。		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤で看護職員(正看護師)を配置し、管理者も准看護師の資格を有しており、日常の健康管理や医療活用を行っている。		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関との情報交換を密に行い、本人が安心して過ごせるよう連携している。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所後早い段階に家族の意向を聴き、ターミナルケアも受け入れている。職員会議やケアカンファレンス時に職員全員が方針を共有できるように努めている。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所の「できること・できないこと」を見極め、家族の意向を元に、かかりつけ医と連携を取り、変化に応じた支援をしている。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び本人に関わるケア関係者で十分話し合い、情報交換を行い、住み替えによるダメージ防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて工夫し、対応するよう職員間で話し合っている。(入浴時や着替え時、トイレ時など必ずドアを閉め他者から見えないようにしたり、タオルかけることで肌を露出しすぎないようにするな	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日頃の関わりの中で、本人が自己決定できるように表情や言葉のかけ方等に注意するよう心掛けている。	
58	○“できる力”を大切にしながら家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	調理、配膳、掃除、洗濯干し・たたみ、持ち物の整理、花・野菜の水やり、等本人のできる力を十分出せるよう個々に応じた支援をしている。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	入浴、食事、就寝、起床等、一日の流れはあるが、日々の本人の体調、気分によりその人のペースを大切にし、その人らしく過ごせるよう支援している。(食事を欲しくないと言われる場合、時間をあけて声かけをするなどし、みんなが食べる時間と	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2ヶ月に一回の訪問美容があり本人の好みの髪型、又、毛染めを行っている。希望があれば望みの店に行ける(近場のみ)。	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理時野菜切り、皮むき、味見等本人のできることを活かし、食の楽しみとなるよう支援している。片付けも利用者が主となり一緒に行っている。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	希望があれば、状況に合わせて支援している。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、気持ちよく排泄出来るよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日の入浴を基本とした上で、本人の希望、タイミング等考慮し、入浴をコミュニケーションの場とし、楽しみながら入浴できるよう支援している。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	状況に応じて、休息したり、眠られるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の中で、本人のできる力を活用し、活躍できる場面作りをする等支援している。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状況に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、お金を管理できる利用者はいないが、希望や状況に応じ、対応している。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、散歩に出たり、庭での日向ぼっこ、洗濯干し、畑作業等戸外に出る機会を多くし、本人に合った支援をしている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との外出は自由にできる。希望があれば、個別の外出に付き添う等支援している。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、電話をかけたたり、手紙を出す支援を行っている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	時間の制限なく訪問でき、訪問時も周りを気にせず居心地よく過ごせるよう、自室で過ごしていただくなどの工夫している。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば常時対応できる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭り、敬老会等家族へ案内を送り、参加を呼びかけている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	ミーティング、職員会議、ケアカンファレンス等で職員の言動を振り返り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中はどこも鍵をかけることなく自由に出入りできるようケアしている。	
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	全職員常に利用者の位置を確認し、安全にも十分配慮している。	
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて、物品の保管、管理している。	
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	勉強会・ミーティング又、日々の支援の中で、知識を学び、共有し事故防止に取り組んでいる。	
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、勉強会等行っているが、定期的な訓練が出来ていない。	○ 応急手当や初期対応のイメージトレーニングや訓練を行うようにしたい。
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリはっと報告書等を作成し、同じことが起こらないよう、職員同士で話し合い、再発防止に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練は行っているが、夜間時の訓練が出来ていない。	○	全職員の協力を得て、夜間の訓練に取り組みたい。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族来所時、又必要に応じ電話等で連絡し状況の説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い、体調変化の早期発見に努め、気づいた際には連絡・報告・共有し、対応している。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理表を作成、整理し、職員が効能・用量・用法が認識できるようにしている。必要時、医師や薬剤師に情報をフィードバックしている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表を作成し、全職員が状況を把握している。水分補給の方法も工夫している。(ゼリーにする等)又、体操・散歩など利用者に合った運動に取り組んでいる。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアを実施し、自分でできない利用者に関しては、職員が清掃・保管している。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量や水分量を記録し、お粥にしたり、刻み食にするなど一人ひとりの状況に合わせた支援をしている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、会議等でも話し合い、予防に取り組んでいる。インフルエンザは毎年全員(利用者・職員共)予防接種している。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	定期的に台所、調理用具の清掃を行っている。毎食後の清掃、食材の衛生的な取り扱い、管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<u>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関や玄関周りの清掃に心掛け、鍵をかけることなく自由に入出りできるようにしている。又、ベランダ側にスロープも設置し、足の不自由な人、車イスの入出りもしやすくなっている。	
91 (36)	<u>○居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	台所、リビング、廊下、玄関まで見渡せるようになっており、共有の空間には、季節毎に絵やはり絵を制作し貼ったり、季節の花を生けたりと工夫している。	
92	<u>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファを2台、向きを変えて設置する等思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。	
93 (37)	<u>○居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や好みものを自由に持ち込めるようになっており、本人と家族の意向に配慮している。	
94	<u>○換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その日その日の気温・天気に留意し、換気・室温調節をこまめに行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>○身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	安全に移動できるよう手摺りを設置している。居室内では利用者の身体状況に合わせ、ポータブルトイレを設置する等の工夫している。	
96	<u>○わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自尊心を傷つけない言葉かけ、又、一人ひとりの力を活かし自立して暮らせるよう工夫している。	
97	<u>○建物の外周や空間の活用</u> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花や野菜を植え、水やり・草取り・収穫に至るまで利用者が楽しんだり活動できるようにしている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない